二一六三番

草枕　旅に物思ひ　我が聞けば　夕かたまけて
鳴くかはづかも

二一六四番

瀬を速み　落ち激ちたる　白波に　かはづ鳴くな
り　朝夕ごとに

二一六五番

上つ瀬に　かはづ妻呼ぶ　夕されば　衣手寒み
妻まかむとか

二一六六番

妹が手を　取石の池の　波の間ゆ　鳥が音異に鳴
く　秋過ぎぬらし